五味高幸議員

保育料の更なる補助、減額は

現状を維持。子育て支援で検討したい

質問・・・現行2子同時入園に限り、2子目半額制度の、同時入園の条件緩和は。又、3子目無料としているが、第3子誕生時点より、第2子、第3子への減額対策は。

教育長・・・保育料の補助制度については、昨年検討し第3子の無料化を決めた。これ以上の減額は、入園希望者の更なる増に繋がり、予算・ハード・ソフト面からも対応できない。

質問・・・保育料減額の対案として、育児手当等の子育て支援は。

教育長・・・子育て世代の経済的負担は承知している。財源と効果について、研究していく。

町長・・・来年度は2千万円の増額予算をする。教育長に少子化対策にも考慮してもらい、最も効率的、有効な方法を検討して頂く。

■諏訪東京理科大に対する町の考えは

質問・・・東京理科大の存続、廃校が町に及ぼす、メリット・デメリットは

町長・・・東京理科大の存続はテレワーク事業にとって非常に大切で、参加企業も人材確保に不可欠な存在と期待している。

質問・・・6市町村での検討委員会参加にあたり、町長のスタンスは。

町長・・・公立化による交付金により、学費が半額となり、学生の増加が期待できる。茅野市を含め地域住民との深い交流、卒業後の地域定着化を提言してゆく。

質問・・・効率化にむけて、現時点では自治体に対し負担は想定されていないが、負担割合についても検討されるのではとの報道もある。町の負担が発生する時の基本的考えは。

町長・・・現在財政的に厳しい状況に置かれている。町負担は考えていない。あくまでも負担無を前提とし、負担発生状況の参加は考えてない。

■市街地の冬季除雪体制は

質問・・・市街地で特に商店等が密集する幹線道路の除雪対策は。

町長・・・該当地域は県道で、歩道・車道の確保について、県にも要請し、町の対応を含め安心・安全に努めたい。対策として今年度は雪捨て場を6カ所確保した。

織田昭雄議員

もっと町民をまきこんだ防災訓練をすべきでは

強力なリーダー養成体制を整備する

質問・・・8月の町防災訓練の総括と課題は

町長・・・今回は情報伝達と指令の確認、人命の問題などを各団体に指令を出して情報収集を的確に行う事が目的。白樺団地、若宮、花場に震度6強の地震で大きな被害が出たと想定した訓練で、情報のさくそうやインフラ破壊の誤った情報が入るなど混乱したが情報を整理して全員が無事に第二避難所に避難できた。町民から何をしているのかとの声もあったが安否確認も去年の大雪災害で経験した様に区加入者は区長にお願いして、未加入者は町が安否確認をする事を基本に震災が起きた時は同じ様に適用する。また、避難ルートの判断をして第二避難所に行く場合も想定外の災害が考えられるがその時は消防団に引率してもらう。

質問・・・安否確認が何年も続くが次のステージの訓練をすべきでは。

町長・・・大雪災害の時の安否確認の経験を震災が起きた場合にも適用できるし、そうしなければならない。第一避難所が破壊され、道がつぶれ川が氾濫するなどが考えられる場合、第二避難所へどのルートを通り誰がリーダーで行くかは消防団にお願いする。

質問・・・行政区にも町が主導でリーダー養成や子育て世代や高齢者しか居ない昼間の防災政策が必要では。

町長・・・地区防災会について町は充分に分析できていない。地区に強力な防災リーダーがいて町がやっていることを充分理解してもらう事は重要。今まではリーダー養成講座しかしていないが、いざ災害が起こった時に先頭にたって地区を救う強いリーダーの養成が出来ていないのが現状。町も本気になって、集落を救う、強力なリーダー養成体制をしっかりしていく。

質問・・・町は国の防災計画にも謳われている様な女性の参画についてはどの様に進めているか。

専任課長・・・女性を巻き込んだ防災政策はまさしく役場で取り込んでいかなくてはと実感している。炊き出し等を女性にお願いしているが日赤奉仕団と共に取り組んで頂けるよう進めていきます。

【その他の質問】

○コミュニティースクールについて